

「がん哲学外来の原点」

がん哲学外来市民学会認定コーディネーター

横山 郁子 よこやま いくこ

(神戸薬科大学 薬学臨床教育センター)



ようこそ、神戸へ。

神戸は、穏やかな海と自然豊かな六甲山に囲まれた美しい街です。

ご存知ですか？

神戸では、北を「山側」、南を「海側」と呼び、生活に海と山が溶け込んでいます。

しかし、この美しい街も、1995年阪神・淡路大震災に見舞われ、多くの命が失われました。大きな悲しみの中、見知らぬ人々が、助け合い、支え合う姿は今でも忘れることはできません。人は災いの中でも、お互いを慈しみ合うことのできる生き物なのだと実感しました。

がん哲学外来もそんな人々が集う場所ではないでしょうか。

現在、メディカル・カフェは全国約130ヶ所で開催されています。

このように、多くのメディカル・カフェが開催されるようになった今、樋野興夫先生が始められた「がん哲学外来」とはどのような場所であるのか、改めてみなさんと一緒に語り合いたいと思い、今回のテーマを「がん哲学外来の原点」とさせていただきます。

淀川キリスト教病院理事長の柏木哲夫先生のご講演、シンポジウムを踏まえて、がん哲学外来について大いに語り合いましょう。きっと「涙なくしては語れない」2日間になることと思います。

心に多くのお土産を持ってお帰りいただけるようお願いしております。

・・・<略歴>・・・

神戸生まれ、神戸育ち。高村光太郎の智恵子抄や宮沢賢治の永訣の朝を愛読し、死と愛について考える思春期を過ごす。

神戸女子薬科大学卒業後、ご縁があり、母校の放射薬品学研究室に勤務。学生と共に学ぶ日々を過ごす。

2006年、薬学部6年制に伴い、現センターに異動。2009年神戸薬科大学大学院 薬学研究科 製剤学講座修了。自分が社会に出来ることを見つけられず思い悩む日々を過ごす。

2014年がん哲学外来に出会い、ライフワークを見つける。